

【基本情報】

教科	国語	学年	3年	教科書	「現代文B」(東京書籍)
科目	現代文B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新版三訂新訂総合国語便覧(第一学習社) オリジナルセンター試験対策 知識問題完全攻略(桐原書店) 現代文 共通テスト対策完答20 (尚文出版)
科目概要	2年次の「現代文B」で学習した内容をさらに発展させ、読解力ならびに記述力の向上を目的としています。そのために、特に評論と小説を中心とした近代以降の様々な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を読み深めます。				
到達目標	近代以降の様々な文章を、目的や表現にそって的確に読み取り、論理的に思考した後に記述することによって、筆者の主張や登場人物の心情などをより具体的に把握・理解できるようになることが目標です。 (大学入学共通テストレベルで70%以上を点数できることを目標とします。)				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の使用を基本としますが、効率を高めるために、内容に応じてプリントなども随時利用します。 本文にそった読解・説明が中心となりますが、指名して発問への解答を求めます。また、本文要約など記述力向上にも力を入れ、書くことも頻繁に求めます。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、副教材(プリント)、国語辞典(電子辞書でもよい)を忘れずに準備してください。 国語辞典は、初出の語句や重要な表現について授業中に全員で調べることがあるので、対応できるように必ず用意しておいてください。 プリントは、補助や演習が中心となりますから、ノートは各自が工夫して作成・記録し、大事なことを書き取れるようにしてください。疑問や意見があるときは、積極的に発言するようにしましょう。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 予習・家庭学習は必須です。予習、家庭学習の習慣化をはかる意味で、基本的な事項の小テストなども実施します。 予習では、①本文を音読し、②新出漢字・語句の読み方や意味を国語辞典で調べ、まとめておきましょう。 一日あたり、どれくらいの時間が必要かは各自で異なりますから、自分の学習計画に合わせて「予習→授業→復習」のサイクルを身につけることが学力向上の早道です。疑問点や不明な点については、その日のうちに教科担任に質問し、家庭でその確認をするという姿勢で取り組んでください。 				
備考	文章を的確に読解し思考を深めていくためには、「語彙力」が欠かせません。しかし、授業で扱う教材だけでは「すべての語彙を学習する」ことは不可能です。「朝の読書」時間を利用して読書に親しみ、また週末課題にも真剣に取り組み、より多くの文章に触れ、語彙を増やし、実践につながるさまざまな教養を身につけていきましょう。そのためには、早めに登校するなど、自発的な姿勢と積極的な学びが求められます。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	国語や言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。	10%	定期考査や課題提出、と毎時間の授業における参加状態や発問に対する解答、小テストの結果などで総合評価します。
B. 話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	10%	
C. 書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	20%	
D. 読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	40%	
E. 知識・理解	表現と理解に役立つための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけている。	20%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
Ⅱ部 評論1	3	文学の未来（小野正嗣）		○	○	○	○	・本文中における引用の役割を抑えて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。。
	3	言語と記号（丸山圭三郎）		○	○	○	○	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。。
小説1	3	檸檬（梶井基次郎）	○			○	○	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。
共通テスト演習	2					○	○	
前期中間考査	1							
評論2	3	環境問題と孤立した個人（河野哲也）		○	○	○	○	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。
	3	鏡の中の現代社会（見田宗介）		○	○	○	○	・さまざまな異世界との比較を通して、自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。。
随想	2	言葉を生きる（若松英輔）	○			○	○	・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。
評論3	3	社会の壊れる時（鷲田清一）		○	○	○	○	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める。
共通テスト演習	3					○	○	
前期期末考査	1							
小説2	3	舞姫（森鷗外）	○			○	○	・時代背景に注意しながら、主人公の心の葛藤を読み取り、人間の生き方について考える。
評論4	3	他者の声 実在の声（野矢茂樹）		○	○	○	○	・比喩や例示の意図を理解することで要旨を捉え、哲学的な思考の方法を理解する。
	3	原始社会像の真実（新納 泉）		○	○	○	○	・時間的に異なる世界を題材とした文章を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。
評論5	3	サッカーにおける「資本主義の精神」（大澤真幸）			○	○	○	・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。
	3	抗争する人間（今村仁司）			○	○	○	・人間の社会と倫理観についての筆者の考察を理解し、人間に対する理解を深める。
共通テスト演習	4					○	○	
後期中間考査	1							
共通テスト演習 (家庭学習期間)	9 (8)					○	○	

【基本情報】

教科	国語	学年	3年	教科書	精選古典B（東京書籍）
科目	古典B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新版四訂 新訂総合国語便覧（第一学習社） ・新版五訂 完全マスター古典文法（第一学習社） ・基礎から解釈へ 漢文必携四訂版（桐原書店） ・古典 共通テスト対策完答24（尚文出版） ・オリジナルセンター試験対策 知識問題完全攻略（桐原書店） ・Key&Point古文単語330改訂版（いっぴな書店）
科目概要	<p>・高校古典の総仕上げとなり、大学進学やその他の進学においても必要な科目です。2年次で学習した古典をさらに発展させ、2年次までに学習した文法事項の反復学習と、文章読解ができるようになることが目標です。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古文分野：2年次までに学習した用言・助動詞・助詞・敬語などの文法事項を定着させることを目指します。また、重要古語も理解し、最終的には古文の文章読解ができるようになることが目標です。 ・漢文分野：2年次までに学習した項目を含め、句法の全般的な理解を目指し最終的には漢文の文章読解ができるようになることが目標です。 ・共通 共通テストや国公立二次試験・私立大試験対策中心であり、古典全国偏差値55以上を目指します。 				
授業の進め方	<p>・教科書を基本としますが、効率性を高めるために随時プリントも使用します。文法事項の説明・重要古語の説明・現代語訳など、要点を絞って説明します。また、指名して現代語訳や発問への解答を求めます。文法事項や古文単語の習得のため、古文・漢文の両分野において小テストを実施することがあります。</p>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、副教材、プリント等は忘れずに準備して下さい。 ・古文、漢文ともに予習をして授業に臨んで下さい。 ・疑問があれば（たとえば現代語訳の別解など）その時間内に積極的に質問、発言することが重要です。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・古文漢文は予習での「ノート作り」が重要です。2年次同様、しっかりと予習してきて下さい。授業時の疑問点や不明な点は、その時間中に教科担任に質問して下さい。 ・授業の切れ目のいいところで共通テスト対策の副教材を使って演習問題を解答します。（使用するときには指示します）また、小テストで古文単語・漢文句法など、重要事項の確認を行います。その際は指示しますのでしっかりと学習して臨んで下さい。 				
備考	<p>・共通テストでは限られた時間内に多くの問題を解くことが求められており読解力が欠かせません。授業時間は限られていますので、古文単語や文法事項、問題演習など、自発的姿勢も大切です。</p>				

【評価の方法】

観 点	ポ イ ン ト	割 合	評 価 項 目
A. 関心・意欲・態度	・言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。	10%	<p>定期考査や課題提出と毎時間の授業における参加状態や発問に対する解答、小テストの結果などで総合評価します。</p>
B. 話す・聞く能力			
C. 書く能力			
D. 読む能力	・古典に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	20%	
E. 知識・理解	・古典を読解する上で重要な文法事項等を理解し、本文を読解し、的確に現代語訳ができるようにする。	70%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学 習 内 容	観 点 別 評 価					到 達 目 標
			A	B	C	D	E	
Ⅱ部 漢文 史話	6	三国志の世界「赤壁之戦」「出師表」	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。史話を読み、作品の価値や日本の文化に与えた影響について考える。 ・説話に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解する。登場人物の描かれ方や話の構成に着目し、説話の特色を理解する。
古文 説話 2	3	『十訓抄』「成方といふ笛吹き」	○			○	○	
	2	共通テスト演習(1)					○	
前期中間考査	1							
古文 日記 2	3	『紫式部日記』「女郎花」	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読み、作者のものの見方や感じ方、考え方について考察する。 ・場面設定や自然描写に着目しながら、登場人物の心情を捉え、物語の世界を読み味わう。 ・詩を読み、そこにうたわれた情景や心情を読み味わう。近体詩と古体詩の違いを理解する。 ・登場人物の生き方や考え方を通して、人間のあり方について考察する。
物語 3	6	『源氏物語』「車争ひ」 「須磨の秋」	○			○	○	
漢文 詩 3	2	共通テスト演習(2)					○	
	3	「李白と杜甫」	○			○	○	
史記 2	3	「韓信伝」 俛出袴下	○			○	○	
前期期末考査	1							
古文 評論 1	2	「古今和歌集仮名序」	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・歌論を読み、論旨を的確に捉える。和歌に対する古人のものの見方感じ方、考え方を理解する。 ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。作品の構成や表現の特色について考察する。 ・長編の古詩を読み、物語的な面白さを味わう。日本の文化と中国の文化との関係について理解を深める。 ・小説に描かれた人々の思想や感情を捉え、ものの見方、感じ方を豊かにする。話の展開を捉え、そこに描かれている世界を読み味わう。 ・評論を読み、論旨を的確に捉える。評論に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解する。
物語 4	3	『夜の寝覚』	○			○	○	
漢文 白楽天と 日本文学	3	「長恨歌」	○			○	○	
小説 2	3	「桃花源記」	○			○	○	
	2	共通テスト演習(3)					○	
古文 評論 2	3	『源氏物語玉の小櫛』	○			○	○	
	3	『風姿花伝』	○			○	○	
後期中間考査	1							
	6	共通テスト演習(4)					○	
家庭学習期間	(8)							

【基本情報】

教科	地理・歴史	学年	3年	教科書	世界史B（実教出版社）
科目	世界史B	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
科目概要	2年次で学習した「世界史B」の内容を踏まえつつ、より大きく幅広い視点で世界の歴史の枠組みと展開を、各時代、各地域の重要な事項を中心に学んでいきます。大学受験に対応できる内容で進めていきます。				
到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することにより、歴史的思考力を養います。また、大学入学共通テストにおいて、少なくとも7割以上得点できる力を身につけ、大学入試にも対応できるようにします。				
授業の進め方	<p>①世界の歴史の基本的事項・事柄を中心としながら、2年次よりも詳しい事項を補足しながら触れていきます。</p> <p>②授業は講義形式で行いますが、効率的に進めていくために、毎回ワークシートを中心に進めていきます。板書事項は専用のワークシートに記入するようにしてください。</p> <p>③資料を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。また、班活動によるAL（アクティブラーニング）型学習を実施することもあります。ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>④地域ごとの“タテの流れ”、時代ごとの“ヨコのつながり”や“地理的な感覚”を意識して授業を行います。また、出来るだけ毎授業毎に大学入学共通テスト形式・私大入試型の問題演習を行います。</p>				
留意事項	<p>① ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>② 配布される「専用ファイル」にワークシートを保存し、ノート代わりに利用すること。 ワークシートは答えの穴埋めだけに終始せず、全体的に捉えて利用すること</p> <p>③ 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。</p> <p>④ 忘れ物は絶対にしないこと。もし、忘れ物がある場合には、事前に申し出ること。</p> <p>⑤ 提出物の期限はしっかり守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点扱いになる場合があります。</p> <p>⑥ 定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。</p>				
家庭学習	<p>効率よく授業を進めるために、課題が出される場合があります。課題をやってこないでALなどの学習活動に支障がきたす場合がありますので、課題がある場合は、必ず行ってきてください。</p> <p>＜「世界史B」を利用して大学受験をする人＞</p> <p>①必ず「世界史用語集」を書店で購入してください。授業や参考書などで不明な語句が出てきた場合は用語集を使って調べる習慣をつけてください。</p> <p>②夏休み前には2年次の「世界史B」で学習した内容を含めて、それまで学習した範囲を教科書・ワークシートを使ってひと通り振り返りながら、確認していくこと。その上でしっかりと基本的事項を定着させ模擬試験に対応できるようにすること。</p> <p>③世界史は「暗記がすべて」ではありません。歴史的な流れや前後の関係を理解することで全体が見えてきます。そのためには興味を持って、何事も深く考察ようにし、単なる語句の暗記にとどまらないようにしてください。</p>				
備考	<p>◆学期末・学年末の評定については、上記の4観点を100点法で換算し、総合ポイントの合計で概ね次のように5段階で出します。</p> <p>85ポイント以上＝「5」 70ポイント以上＝「4」 45ポイント以上＝「3」 30ポイント以上＝「2」 30ポイント未満＝「1」</p>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	10%	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。 (ワークシートの作成の仕方及び評価の観点は授業の中で説明します。)
B. 思考・判断・表現	世界の歴史を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	5%	「思考・判断・表現」に関わる課題を出します。班ごとに作業し課題を提出してもらいます。 (くわしい評価の観点は授業の中で説明します。)
C. 資料活用能力	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	5%	地図やグラフなどを用いた「資料活用能力」に関わる課題を出します。
D. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	80%	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1. 重商主義と啓蒙専制主義 2. ヨーロッパ諸国の海外進出 3. 17～18世紀のヨーロッパの文化と社会	1 2	17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向, 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の植民地争奪, 大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組み 17～18世紀のヨーロッパ文化の特色と社会状況		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1. 産業革命 2. アメリカ独立革命 3. フランス革命とナポレオン	1 5	一年次の世界史Aで履修している項目ですので、復習を行います。					
第11章 欧米における近代国民国家の発展 1. ウィーン体制の成立 2. ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3. 南北アメリカの発展	1 5	一年次の世界史Aで履修している項目ですので、復習を行います					
第12章 アジア諸地域の動揺 1. オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2. 南アジア・東南アジアの植民地化 3. 東アジアの激動	1 2	オスマン帝国支配の動揺と改革, アラブ諸民族の覚醒, イラン・アフガニスタンの動向 インドの植民地化と社会の変貌, 東南アジア諸国の植民地化の過程 清朝の動揺と近代化改革, 東アジア国際秩序の再編					
第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1. 帝国主義と列強の展開 2. 世界分割と列強対立 3. アジア諸国の改革と民族運動	1 2	帝国主義の特質と, 帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競争, 従属させられた地域社会の抵抗と変容 欧米諸国の支配下のアジア諸国の改革と民族運動の形成					
第14章 二つの世界大戦 1. 第一次世界大戦とロシア革命 2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3. アジア・アフリカ地域の民族運動 4. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5. 第二次世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の独立 1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2. 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3. 第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 4. 石油危機と世界経済の再編 第16章 現在の世界 1. 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2. 途上国の民主化と独裁政権の動揺 3. 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4. 現代文明の諸特徴	2 2			○	○	世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。	
問題演習・解説	4 0	大学入学共通テスト、難関私大入試に向けての問題演習					

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	2年 後期～ 3年	教科書	詳説 日本史B (山川出版社)
科目	日本史B	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	図説 日本史通覧 (帝国書院) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店)
科目概要	<p>1 古代・中世・近世における我が国の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷に関わる総合的な考察について取り上げていく。</p> <p>2 学習を通して歴史的思考力を育成し、我が国の伝統と文化についての認識を深めていくとともに、国際社会の中で生きていく思考力・判断力・理解力を養っていく。</p>				
到達目標	<p>1 古代・中世・近世における歴史の流れを理解できる。</p> <p>2 古代・中世・近世における日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</p> <p>3 古代・中世・近世における日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</p>				
授業の進め方	<p>1 基本的に、教科書、資料集、プリント等を使いながら重要事項の説明及び板書を中心に講義形式の授業を行う。</p> <p>2 質問及び歴史に関わる教材の提供を通して、興味や関心を深めていく。</p> <p>3 アクティブラーニングを念頭においた、学んだことや考えたことを表現する場を設ける。</p>				
留意事項	<p>1 授業に必要な教材（教科書、資料集、プリントを綴じるファイル等）は忘れずに毎時間準備する。</p> <p>2 積極的に授業に参加する。</p> <p>3 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。</p>				
家庭学習	<p>1 教科書を読み進める家庭学習を推奨する。</p> <p>2 参考書、問題集等を復習用として活用していくことを薦める。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・歴史の展開に対する関心と、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。	10%	・授業中の発表、ワークシート・資料プリントの活用状況を随時点検し、評価する。
B. 思考・判断・表現	・日本の文化と伝統の特色について認識を深めつつ、国際社会の変化を世界史的視野にたって公正に考察できるか。	10%	・授業態度の観察および定期考査において、思考・判断・表現に関する出題をし、評価する。
C. 資料活用の技能	・資料・情報を収集活用し、歴史的事象を追求する方法を身につけられるか。	10%	・授業で活用した様々な資料の読み取りや解釈について、適切にできているかを定期考査において出題し、評価する。
D. 知識・理解	・基本的な事柄を、世界史的視野にたって総合的に理解し、その知識を身につけているか。	70%	・定期考査において、授業で学習した基礎・基本事項の理解度を評価する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第Ⅰ部 原始・古代 第3章 貴族政治と国風文化	14	・ 摂関政治 ・ 国風文化 ・ 地方政治の展開と武士	○	○	○	○	・ 平安時代中期から武士の台頭期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・ 平安時代中期から武士の台頭期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 平安時代中期から武士の台頭期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立	24	・ 院政と平氏の台頭 ・ 鎌倉幕府の成立 ・ 武士の社会 ・ 蒙古襲来と幕府の衰退 ・ 鎌倉文化	○	○	○	○	・ 院政期から鎌倉時代にかけての歴史の流れを理解できる。 ・ 院政期から鎌倉時代にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 院政期から鎌倉時代までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第5章 武家社会の成長	24	・ 室町幕府の成立 ・ 幕府の衰退と庶民の台頭 ・ 室町文化 ・ 戦国大名の登場	○	○	○	○	・ 鎌倉幕府滅亡時から戦国期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・ 鎌倉幕府滅亡時から戦国期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 鎌倉幕府滅亡時から戦国期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立	12	・ 織豊政権 ・ 桃山文化 ・ 幕藩体制の成立 ・ 幕藩社会の構造	○	○	○	○	・ 織豊政権から江戸幕府成立期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・ 織豊政権から江戸幕府成立期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 織豊政権から江戸幕府成立期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第7章 幕藩体制の展開	13	・ 幕政の安定 ・ 経済の発展 ・ 元禄文化	○	○	○	○	・ 江戸幕府安定期の歴史の流れを理解できる。 ・ 江戸幕府安定期の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 江戸幕府安定期の日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第8章 幕藩体制の動揺	18	・ 幕政の改革 ・ 宝暦・天明期の文化 ・ 幕府の衰退と近代への道 ・ 化政文化	○	○	○	○	・ 江戸幕府改革期の歴史の流れを理解できる。 ・ 江戸幕府改革期の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・ 江戸幕府改革期の日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第9章 近代国家の成立	6	・ 開国と幕末の動乱	○			○	・ 幕末の流れを振り返り、近代以降の確認をする。
大学入学共通テスト対策 (家庭学習期間)	17						

【基本情報】

教科	地理歴史	学年	3年	教科書	新詳地理B（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
科目	地理B	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	新詳地理資料COMPLETE2020（帝国書院）
科目概要	「地理B」は、地図の読図や作図などの学習によって身につけた地理的技能や、地球上の各地で生ずるさまざまな事象について、因果関係や地域的特色を分析することで得た知識を活用し、現代社会の諸地域の特色や課題を考察する科目です。				
到達目標	現代社会の地理的事象を系統地理的に考察し、その成果を受けて現代社会の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的な見方や考え方を身につける。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地図の読図や作図などの作業的・体験的な学習によって地理的技能を身につけるとともに、世界の環境、資源、産業について学習します。 ・授業は講義形式で行いますが、効率的にすすめるために毎回ワークシートを中心に進めていきます。 ・板書事項は専用のワークシートを中心に進めていきます。その際、教科書・資料集・地図帳を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。 ・毎回、必ず教科書・資料集・地図帳・ワークシートを忘れないようにして下さい。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の際に配布されるワークシートをファイルに保存し、ノート代わりに使用すること。ワークシートは答えの穴埋めだけでなく、後から見て分かりやすいように、授業で説明した内容なども空きスペースにメモしておくこと。 ・板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。 ・忘れ物はしないこと。忘れ物がある場合には事前に申し出ること。 ・提出物の期限はしっかりと守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点になる場合があります。 ・定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。 ・教師の発問に対する答えや質問など、積極的に授業に参加すること。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは授業を大切に、毎回の授業の中できちんと内容を理解できるように心がけて下さい。その中で理解が不足していたと思われる分野については、教科書を読むなどの家庭学習で補っておいて下さい。また、定期考査に向けてはしっかり学習して臨んで下さい。 				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識をもっているか。	20%	・ワークシートの作成内容・提出状況や授業態度等で評価する。
B. 思考・判断・表現	・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的・地誌的に考察することができたか。	30%	・原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」にかかわる問題を出題する
C. 資料活用の技能	・地図や統計、画像など地域に関する諸資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりできたか。	20%	・原則的に定期考査の中で、地図や表・グラフなどを用いた「資料活用能力」にかかわる問題を出題する。
D. 知識・理解	・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解しているか。	30%	・原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関する問題を出題する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図	5	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代の地図について、その特色を学ぶ。 ・地球儀の活用や時差について学習する。 ・地図の種類とそれぞれの特色を学習する。 ・地形図、都市計画図などの特色を学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の人々の世界観をとらえることで、現代の地図や身近な地図の有用性に気づくことができる。 ・平面の地図では球面上の情報を正しく表現できないこと、使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことが理解できる。 ・現代世界に関する統計を地理情報に加工し、分布図や階級区分図などを作成できる地理的技能を習得する。 ・地域調査の目的や方法に適した地図を選択する能力を習得する。
2章 地図の活用と地域調査	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の手順について学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集・整理、現地調査、考察やまとめ・発表などの活動を通して、生活圏の地域的特色をとらえる能力を習得する。
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境	30	<ul style="list-style-type: none"> ・規模や成因の違うさまざまな地形を取り上げて、その分布や形成要因から基礎的知識や概念について学習する。 ・地球規模でみた気温・降水量・大気大循環、海洋や水の循環を取り上げて学習する。 ・世界の気候区分の方法や世界規模から見た植生・土壌の特色について学習する。 ・日本の自然の特徴と人々の生活について学習する。 ・地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、森林破壊、大気汚染、異常気象を取り上げて学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地形と生活との関連を考察し、地形図の読図に関する地理的技能を習得する。 ・左記の特色や形成成因を考察・理解できる。 ・世界の気候帯の分布や形成要因、気候と人々の生活との関連について考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解し、防災のあり方についても考察できるようにする。 ・環境問題を大観しながら自然環境の諸問題に関する分布や形成成因を考察・理解できる。
2章 資源と産業	50	<ul style="list-style-type: none"> ・世界・日本の農業、水産業、林業について学習する。 ・世界の食料問題について、発展途上国、先進国、日本の事例をもとに学習する。 ・世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて学習する。 ・現代世界の資源・エネルギー問題について学習する。 ・世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容について学習する ・世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因について学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の農林水産業の特色の分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・各国の事例をもとに、世界の食料自給の地域的なかたよりを大観・考察することができる。 ・世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察できるようにする。 ・世界の資源をめぐる問題・エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題について大観できるようにする。 ・グローバル化中での世界と日本の工業に関して、世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察できるようにする。 ・それぞれの課題に関して、世界的視野に留意して考察することができる。
3章 人口、村落・都市	4	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因について学習する。 ・村落の立地と形態、都市の発達と変容について学習し、村落・都市について基礎的・基本的知識を学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題とも関連させて考察できるようにする。 ・世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について、世界的視野に留意して考察することができる。
4章 生活文化、民族・宗教	5	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解する。 ・世界の言語と宗教の分布について学習する。生活との関わりについて理解する。 ・民族と国家との関連について学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の地域的差異と世界的な画一化について、地域性との関連をもとに考察することができる。 ・言語・宗教と生活との関わりについて理解し、宗教と社会との関連を考察することができる。 ・世界的に見た民族と国家の多様性や、日本の領土問題について考察し、国家群や国連の役割が理解できる。

第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	1	・現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によってさまざまな地域に区分できることを学習する。	○	○	○	○	・多様な区分から現代世界の特色を理解できるようにする。
1章 現代世界の地域区分							
2章 現代世界の諸地域	60	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流について学習する。 ・東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題という項目ごとに学習する。 ・南アジアについて、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を学習する。 ・西アジア・中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業を学習する。 ・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域の結びつきを学習する。 ・ヨーロッパについて、形式的な地域区分にもとづき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパを学習する。 ・ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきを学習する。 ・アングロアメリカの、ゲルマン文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界の中のアメリカ合衆国、アメリカ合衆国とのつながりが深いカナダについて学習する。 ・ラテンアメリカについて、ローマン文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化を学習する。 ・オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、アジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物を学習する。 	○	○	○	○	・歴史的背景や文化の特色等とも結びつけて、それぞれの項目ごとに整理し、各地域の特色と地球的課題を考察できるようにする。映像として印象づける必要性もある。
3章 現代世界と日本	1	・これまでの学習をもとに、日本の自然、産業構造、人口構成と居住問題、伝統文化保全とグローバル化について学習する。	○	○	○	○	・日本が抱える地理的な課題を発見し、その課題を多面的・多角的に考察できるようにする。

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	3年	教科書	高等学校 改訂版 政治・経済（第一学習社）
科目	政治経済	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	最新 政治・経済資料2020（第一学習社） 改訂版4ステージ演習ノート（数研出版）
科目概要	1. 民主主義の本質に関する理解を深める。 2. 現代の政治・経済・国際関係について理解する。 3. 現代の政治・経済・国際関係に関する諸課題について考察し、公正な判断力を養う。 4. 良識ある公民として必要な能力と態度を養う。				
到達目標	1. 民主主義の歴史や日本国憲法を学習し、民主主義の本質が理解できる。 2. 現代の政治・経済・国際関係を学習し、しくみを理解できる。 3. 現代の政治・経済・国際関係の課題を学習し、考察できる。 4. 良識ある公民としての知識を身につけ、様々な課題に対して自分の意見が持てるようになる。				
授業の進め方	1. 個別に調べ作業を行い、自分なりのノートを作成することを基本として、理解と定着をはかります。 2. 身近な課題を提供することで、政治・経済・国際関係への興味や関心を深めていきます。 3. 要点をもとに説明を行い、それぞれが自分なりの考えを持つことを大切に授業を進めます。				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な教材（教科書、資料集、ノート、プリント、問題集等）は忘れずに毎時間準備すること。 ・積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読む、ニュースを見るという家庭学習を推奨します。 ・教科書を読むという予習を推奨します。 ・問題集を解くという復習を推奨します。 				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・政治・経済・国際関係の様々な課題に対する関心を高め、積極的に学習に取り組んでいるか。	20%	・授業の様子や、課題等により評価する。
B. 思考・判断・表現	・政治・経済・国際関係の様々な課題について考察し、自分なりの判断を様々な方法で表現できるか。	20%	・定期考査やレポート等により評価する。
C. 資料活用の技能	・政治・経済・国際関係の様々な課題に関する諸資料を積極的に利用し、効果的に活用できたか。	20%	・定期考査より評価する。
D. 知識・理解	・政治・経済・国際関係の様々な課題の基本的な概念やしくみを理解し、その知識が身についたか。	40%	・定期考査により評価する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本 原理と日本国憲 法	10	1 民主主義のあり方について理解する とともに、現代政治の特質について 把握する。 2 日本国憲法の全体像にふれながら平 和や人権などの問題について考察す る。 3 国会、内閣、裁判所、地方自治など の政治機構を理解し、政治に対して 主権者としての関心を深める。 4 選挙制度や政党について理解し、現 代日本の政治の問題について幅広い 視点から考察する。	◎	○	○		民主主義、日本国憲法、政治機構、選挙制度などの基本的な知識や仕組みを理解して、日本の政治について興味関心を持って、様々な視点から考察できるようになる。
第1編 現代の政治 第2章 現代の国際政治 と日本	10	1 冷戦終結後の国際社会の動向につ い知ること世界観を広げる。 2 国際連合の役割を理解し、現実に国 際連合が抱える問題についても把握 する。 3 民族紛争などを例に、複雑な国際関 係を把握しながら平和について考察 する。	◎	○	○	○	国際社会の動向や国際連合の役割、民族紛争の原因や現状を分析して、国際社会のあり方や平和について考察するための基本事項を理解する。
前期中間考査	1		○	◎	◎	◎	
第2編 現代の経済 第1章 現代の経済のし くみと特質	20	1 資本主義経済の特徴を理解すること で日本の経済体制を把握する。 2 経済の基本的な概念や経済理論を学 習することによって、現代経済の特 質について考察する。 3 市場経済、景気変動、財政、金融な どのしくみや役割について理解し、 現代日本の経済活動を把握する。 4 経済成長とともに発生した社会問題 などを学習し、日本経済のあり方 について考察する。	◎	○	○	○	資本主義経済の特徴や日本の経済機構について学習して、身近な経済活動や様々な経済政策についての理解を深めることができる。
前期期末考査	1		○	◎	◎	◎	
第2編 現代の経済 第2章 国民経済と国際 経済	11	1 国際経済に関する基本的な概念や理 論を理解し、日本が果たすべき役割 を考察する。 2 グローバリゼーションと地域経済統 合について把握し、未来の国際関係 について考察する。	◎	○	○	○	グローバル化する国際経済を分析し、その課題について考察するための基本事項を理解する。
後期中間考査	1		○	◎	◎	◎	
第3編 現代社会の諸課 題	10	1 現代日本の抱える課題を政治と経済 との関連に留意しながら様々な視点 から考察する。	◎	○	○	○	今日的な問題について考察することができるように、基本事項を理解する。

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	3年	教科書	高等学校 新倫理 最新版 (清水書院)
科目	倫理	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	テオリー最新倫理資料集 (第一学習社) 完全MASTER倫理問題集 大学入試共通テスト (清水書院)
科目概要	青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解を深めるとともに、人格形成に努める意欲を高め、他者と共に生きる自己を確立し、良識ある公民としての自覚を身につける。				
到達目標	青年期のあり方、世界の三大宗教、東西の源流思想、近現代思想及び現代の諸課題について理解を深め、自ら考える主体性を身につけさせる。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の基本的内容を踏まえつつ、順次発展的内容についても触れていきます。 授業は、教科書や資料集及び必要な資料(新聞記事など)を使って進めます。教科書・資料集の大事な箇所には必ず印やアンダーラインをつけることを習慣化してください。 思想のつながりや共通点についても説明しますので、自分の頭の中で関連づけて考える習慣を身につけてください。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 配布されるワークシートをノートに貼り付けるかもしくはファイルにまとめるなどして使用してください。ワークシートは答えの穴埋めだけにとどまらず、全体的に捉えて利用してください。 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けします。 忘れ物は絶対しないこと。もし忘れた場合は事前に申し出てください。 定期考査において漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して漢字を使うようにしてください。 教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加してください。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの思想の特徴をワークシートを使い確認するとともに、その類似点や関連性についても自分なりに考える習慣を身につけることで思想の理解が深まります。 問題集を予習・復習に効果的に使ってください。(特に知識定着に役立ちます) 				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	先哲の基本的な考えを手がかりとし、人間の存在や価値について思索を深める。	30%	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。(ワークシートの作成方法及び評価の観点は授業中に説明します。)
B. 思考・判断・表現	先哲の思想を足がかりとし、自らの考えや意見を論理的にまとめられる。	10%	原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」に関する問題を5%分出題します。残りの5%分は主題学習に関わる部分で評価します。
C. 資料活用能力	先哲の思想の学習を通じて、古典に親しむ態度や習慣を養い、思想的な文章を読んで理解できる。	10%	原則的に定期考査の中で、資料を用いた「資料活用能力」に関わる問題を出題します。
D. 知識・理解	先哲の基本的な考えを他の思想と関連づけながら体系的に理解し、身につける。	50%	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現に向けて 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問い 第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教ー愛の宗教 第2節 イスラーム 第3節 仏教	20	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性の定義・人間存在の特性について理解させる。 ・青年期の特性と課題を把握させる。 ・欲求と適応、パーソナリティの形成について理解を深める。 ・アイデンティティとは何かを知り、その確立の重要性を理解させる。 ・哲学を生み出した古代ギリシア人の世界観を理解させる。 ・ソクラテス・プラトン・アリストテレスの思想について、理解を深める。 ・ヘレニズム思想の特徴についてその歴史的背景を含めて理解させる。 ・キリスト教及びその母胎となったユダヤ教もについて理解を深める。 ・イスラームの成立、宗教的な義務や戒律を中心とするその教えの特徴を理解させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて他者と共に生きることを考え自己の生き方が現代の倫理的課題と結びついていることを理解する。 ・自己の生きる課題との関わりにおいて、先哲の基本的な考え方を手がかりとして人間の存在や価値について思索を深める。
第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想 第4章 人生における芸術 第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳 第2節 自然や科学と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり 第6節 現代における理性の問題	20	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の特徴やその後の発展について理解させる。 ・諸子百家の思想を歴史的・社会的背景とともに理解させる。 ・現代社会のものの見方・考え方が近代の人間尊重の精神に基づいていることを理解させ、その本質について考えさせる。 ・ルネサンス、宗教改革について理解を深める。 ・近代科学は、数量的法則を発見し技術的に自然を支配する思想とともに発展したことを理解させる。 ・近代において、個人と市民社会がどのような過程を経て確立されたかを理解させる。 ・理性のあり方の変遷について理解を深める。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間のかかわり、民主社会における人間のあり方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身につけさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考える。
第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来 第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土の特徴を理解するとともに、日本人の生き方について考察させる。 ・日本に移入された仏教のその後の展開について理解を深める。 ・儒教の日本化について理解を深める。 ・古典の研究として始まった国学がどのような内容を持つか理解させる。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのように捉えていたか理解を深めさせる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方生き方の自覚を深める。
第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学技術や先端医療が今日どのような倫理的課題をもたらしているか理解させる。 ・現代の諸問題について、理解を深める。 ・地球市民の一人として、多様な異文化との共生のあり方を考え、実践していく力を育む。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探求し、現代に生きる人間としてのあり方生き方の自覚を深める。

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	数学Ⅲ Advanced (東京書籍)
科目	数学Ⅲ(α)	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅲ (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。2年次で学習する「微分と積分」について、より深く学習する。将来、数学が必要な専門分野に進学する場合(特に理系大学進学)において必要となることが多い科目である。</p> <p>①関数と極限 …分数関数や無理関数とそのグラフ、数列や関数の極限について学ぶ。 ②微分 …あらゆる関数の導関数を求める。 ③微分の応用 …微分の計算をもとに、さまざまな関数のグラフを書いたり、方程式・不等式へ応用する。 ④積分とその応用…あらゆる関数の積分計算を行う。また、面積や体積、曲線の長さを求める。</p>				
到達目標	<p>・極限や微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得の状態と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末の練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・極限、微分法および積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	30%	
C. 数学的な技能	・極限、微分法および積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	30%	
D. 知識・理解	・極限、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則など体系的に理解し、知識を身につけている。	30%	

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	数学Ⅲ Advanced (東京書籍)
科目	数学Ⅲ(β)	単位数 (年間予定コマ数)	2 (96)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅲ (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。数学Ⅲ(β)では、「平面上の曲線」・「複素数平面」について学習する。</p> <p>・将来、数学が必要な専門分野に進学する場合(特に理系大学進学)において必要となることが多い科目である。</p> <p>①平面上の曲線 …放物線、楕円、双曲線などの平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解する。</p> <p>②複素数平面 …座標平面上に複素数を対応させる。また、複素数の極形式やド・モアブルの定理について学習し活用する。</p>				
到達目標	<p>・平面上の曲線や複素数についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標にする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付け様々な分野に応用できるようにする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末の練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・平面上の曲線と複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念、原理・法則など体系的に理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 平面上の曲線 1 節 2次曲線 2 節 媒介変数表示と極座標	2 1	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線と離心率 問題 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 いろいろな曲線 問題	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 放物線，楕円，双曲線が二次式で表されることおよびそれらの2次曲線の基本的性質について理解する。 数学Iの2次関数のグラフが放物線であることを確認する。それによって，楕円，双曲線との関係が，離心率との考え方によって定まることを確認する。 媒介変数の意味および曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し，それらを事象の考察へと活用する。 極座標の意味および曲線が極方程式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用する。
② 複素数平面 1 節 複素数平面 2 節 図形への応用	1 4	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 問題 円と分点 複素数と三角形 問題	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また，複素数平面における複素数の和・差・実数倍とベクトルの和・差・実数倍の関係を理解する 複素数の極形式を理解し，表すことができる。また，複素数の積・商と複素数平面上の回転移動の関係を理解する。 ド・モアブルの定理を理解する。また，ド・モアブルの定理を用いて解を求めることができる。さらに，その解を複素数平面上に図示することができる。 内分点や外分点，円，軌跡を複素数を用いて表現することができる。 偏角を用いることにより，複素数平面上の3点でできる角の大きさを表すことができることを理解する。また，複素数平面上の三角形の形状を調べることができる。
<発展的な内容>	6 1	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習					・発展的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	数学研究	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B 上級演習PLAN120
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Aについて、基礎の復習をする。 ・演習を通し、基礎的な内容にとどまらず、発展的な内容にも取り組む。 ・全体の問題演習が完了後、発展的な内容の定着に努める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅠAの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入学共通テスト（新テスト）対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅠAに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学ⅠAにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅠAにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学 I > 数と式、集合と論証	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の計算（展開・因数分解・有理化等） ・方程式（絶対値を含む） ・集合と要素の個数 ・命題と論証 			○	○	・1・2年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
2次関数	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフ ・グラフと方程式および不等式の関係 ・最大値と最小値 		○	○		
図形と計量	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 		○	○		
データの分析	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値・箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数 		○		○	
<数学 A > 場合の数と確率	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・順列，組合せ，二項定理 ・確率，期待値 		○	○	○	・同上
図形の性質	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質の基本 ・方べきの定理・メネラウスの定理 ・円に外接する四角形 		○	○		
整数の性質	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の性質の基本 ・不定方程式 		○		○	
<大学入学共通テスト (新テスト) 対策> 数学 I・A	1 0	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した問題を中心とした演習	○		○		・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
<大学入学共通テスト (新テスト) 特別授業>	1 0	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習	○		○		・同上

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	発展数学	単位数 (年間予定コマ数)	2 (96)	副教材	数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B 上級演習PLAN120
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次に学習した数学Ⅱ・Bの内容について、基礎の復習をする。 ・復習と同時に受験問題レベルの問題演習を行う。 ・全体の問題演習が完了してから、発展的な内容の定着に努める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅡBの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入学共通テスト（新テスト）対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅡBに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学ⅡBにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅡBにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学Ⅱ> 式と証明 複素数と方程式	1 2	・整式の除法と分数式, 式の証明 ・剰余の定理, 因数定理 ・複素数, 高次方程式	○	○			・1・2年次で学習した内容を確認しつつ, 入試問題演習を交えながら, 総合問題に取り組む。
図形と方程式	1 0	・点と直線 ・円と直線 ・軌跡と領域	○		○		・同上
三角関数	1 0	・一般角, 弧度法 三角関数の相互関係 ・加法定理, 2倍角, 半角, 合成	○		○		・同上
指数関数・対数関数	1 0	・指数関数, 対数関数	○		○		・同上
微分法・積分法	1 2	・微分の計算, 接線の方程式 ・関数の増減と方程式への応用 ・不定積分, 定積分と面積	○	○			・同上
<数学B> ベクトル	1 2	・ベクトルの和・差・成分・内積 ・位置ベクトルと図形 ・空間のベクトル		○	○		・同上
数列	1 2	・等差数列, 等比数列 ・階差数列, その他の数列 ・漸化式, 数学的帰納法		○	○		
<大学入学共通テスト (新テスト) 対策> 数学Ⅱ・B	1 0	・大学入学共通テスト(新テスト)に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
<大学入学共通テスト (新テスト) 特別授業>	8	・大学入学共通テスト(新テスト)に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・同上

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ(α)	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	数学Ⅲ Advanced (東京書籍) Hi-PRIME 数学Ⅲ (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。2年次で学習する「微分と積分」について、より深く学習する。将来、数学が必要な専門分野に進学する場合（特に理系大学進学）において必要となることが多い科目である。</p> <p>①関数と極限 …分数関数や無理関数とそのグラフ、数列や関数の極限について学ぶ。 ②微分 …あらゆる関数の導関数を求める。 ③微分の応用 …微分の計算をもとに、さまざまな関数のグラフを書いたり、方程式・不等式へ応用する。 ④積分とその応用…あらゆる関数の積分計算を行う。また、面積や体積、曲線の長さを求める。</p>				
到達目標	<p>・極限や微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得の状態と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート（教科書用と問題集用の2冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末の練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・極限、微分法および積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	30%	
C. 数学的な技能	・極限、微分法および積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	30%	
D. 知識・理解	・極限、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則など体系的に理解し、知識を身につけている。	30%	

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ(β)	単位数 (年間予定コマ数)	2 (96)	副教材	数学Ⅲ Advanced (東京書籍) Hi-PRIME 数学Ⅲ (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。数学Ⅲ(β)では、「平面上の曲線」・「複素数平面」について学習する。</p> <p>・将来、数学が必要な専門分野に進学する場合(特に理系大学進学)において必要となることが多い科目である。</p> <p>①平面上の曲線 …放物線、楕円、双曲線などの平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解する。</p> <p>②複素数平面 …座標平面上に複素数を対応させる。また、複素数の極形式やド・モアブルの定理について学習し活用する。</p>				
到達目標	<p>・平面上の曲線や複素数についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標にする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付け様々な分野に応用できるようにする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・進捗によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末の練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・平面上の曲線と複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念、原理・法則など体系的に理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	2 1	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線と離心率 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 いろいろな曲線 問題	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 放物線，楕円，双曲線が二次式で表されることおよびそれらの2次曲線の基本的性質について理解する。 数学Ⅰの2次関数のグラフが放物線であることを確認する。それによって，楕円，双曲線との関係が，離心率との考え方によって定まることを確認する。 媒介変数の意味および曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し，それらを事象の考察へと活用する。 極座標の意味および曲線が極方程式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用する。
② 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	1 4	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 問題 円と分点 複素数と三角形 問題	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また，複素数平面上における複素数の和・差・実数倍とベクトルの和・差・実数倍の関係を理解する 複素数の極形式を理解し，表すことができる。また，複素数の積・商と複素数平面上の回転移動の関係を理解する。 ド・モアブルの定理を理解する。また，ド・モアブルの定理を用いて解を求めることができる。さらに，その解を複素数平面上に図示することができる。 内分点や外分点，円，軌跡を複素数を用いて表現することができる。 偏角を用いることにより，複素数平面上の3点でできる角の大きさを表すことができることを理解する。また，複素数平面上の三角形の形状を調べることができる。
<発展的な内容>	6 1	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習					・発展的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ(数研)	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Aについて、基礎の復習をする。 ・演習を通し、基礎的な内容にとどまらず、発展的な内容にも取り組む。 ・全体の問題演習が完了後、発展的な内容の定着に努める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅠAの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入学共通テスト(新テスト)対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅠAに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学ⅠAにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅠAにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学 I > 数と式、集合と論証	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整式の計算（展開・因数分解・有理化等） ・ 方程式（絶対値を含む） ・ 集合と要素の個数 ・ 命題と論証 			○	○	・ 1・2年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
2次関数	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次関数のグラフ ・ グラフと方程式および不等式の関係 ・ 最大値と最小値 		○	○		
図形と計量	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角比の基本 ・ 正弦定理・余弦定理 ・ 三角形や四角形への応用 		○	○		
データの分析	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表値・箱ひげ図・分散と標準偏差 ・ 相関係数 		○		○	
<数学 A > 場合の数と確率	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順列，組合せ，二項定理 ・ 確率，期待値 		○	○	○	・ 同上
図形の性質	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質の基本 ・ 方べきの定理・メネラウスの定理 ・ 円に外接する四角形 		○	○		
整数の性質	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数の性質の基本 ・ 不定方程式 		○		○	
<大学入学共通テスト (新テスト) 対策> 数学 I・A	1 0	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に対応した問題を中心とした演習	○		○		・ 基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
<大学入学共通テスト (新テスト) 特別授業>	1 0	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習	○		○		・ 同上

【基本情報】

教科	数学	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ（発展）	単位数 (年間予定コマ数)	2 (96)	副教材	数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B 上級演習PLAN120
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次に学習した数学Ⅱ・Bの内容について、基礎の復習をする。 ・復習と同時に受験問題レベルの問題演習を行う。 ・全体の問題演習が完了してから、発展的な内容の定着に努める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅡBの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入学共通テスト（新テスト）対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅡBに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学ⅡBにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅡBにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学Ⅱ> 式と証明 複素数と方程式	1 2	・整式の除法と分数式, 式の証明 ・剰余の定理, 因数定理 ・複素数, 高次方程式	○	○			・1・2年次で学習した内容を確認しつつ, 入試問題演習を交えながら, 総合問題に取り組む。
図形と方程式	1 0	・点と直線 ・円と直線 ・軌跡と領域	○		○		・同上
三角関数	1 0	・一般角, 弧度法 三角関数の相互関係 ・加法定理, 2倍角, 半角, 合成	○		○		・同上
指数関数・対数関数	1 0	・指数関数, 対数関数	○		○		・同上
微分法・積分法	1 2	・微分の計算, 接線の方程式 ・関数の増減と方程式への応用 ・不定積分, 定積分と面積	○	○			・同上
<数学B> ベクトル	1 2	・ベクトルの和・差・成分・内積 ・位置ベクトルと図形 ・空間のベクトル		○	○		・同上
数列	1 2	・等差数列, 等比数列 ・階差数列, その他の数列 ・漸化式, 数学的帰納法		○	○		
<大学入学共通テスト (新テスト) 対策> 数学Ⅱ・B	1 0	・大学入学共通テスト(新テスト)に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
<大学入学共通テスト (新テスト) 特別授業>	8	・大学入学共通テスト(新テスト)に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・同上